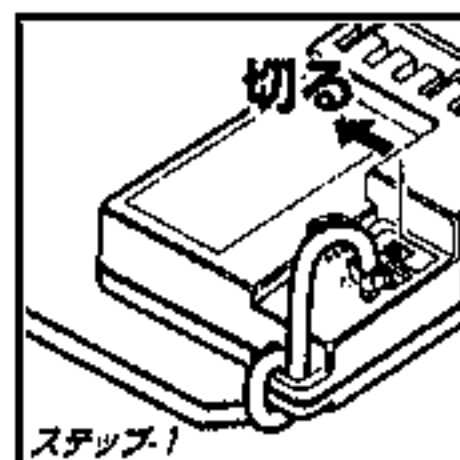


EGS-M3・G3 L端子検出方式への変更方法

ステップ 1

エンジンスターター本体のパワースイッチを切ります。

既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。



ステップ 2

車のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1～3V、エンジンが駆動している時、約12～14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



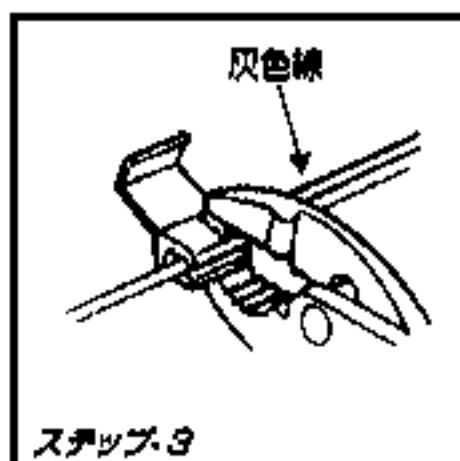
ステップ 3

安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

安全センサーケーブルの灰色線をグロメット等を利用して、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

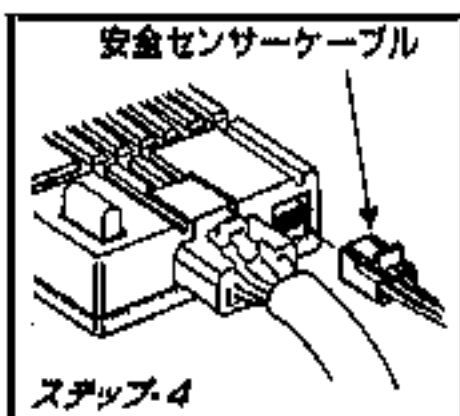


接触不良が起きない様に確実に取り付けて下さい。なお、エレクトロタップは防水のためテーピングして下さい。灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。



ステップ 4

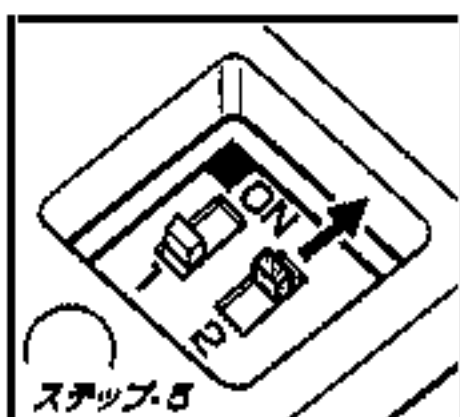
安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。



ステップ 5

エンジンスターター本体のモードスイッチ2をONにします。

スイッチが小さいため、ボールペンの先端等で行ってください。



OK!

以上でL端子配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来ることを確認して下さい。なお、接続したL端子が正しいか否かを、エンジンスターター本体の「CHGランプ」の点灯状態で確認することが出来ます。チェック方法は、下記「L端子誤配線チェック機能」に習って行って下さい。

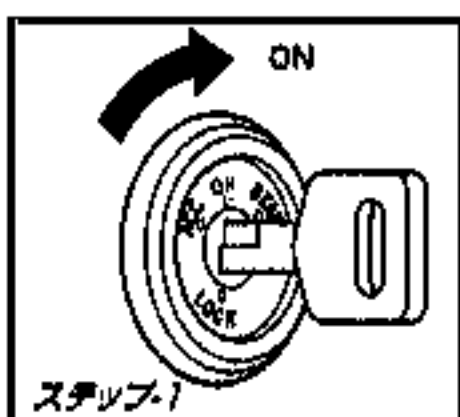
L端子誤配線チェック機能

以下のチェック方法は、モードスイッチ2がONのときにのみ行うことが出来ます。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

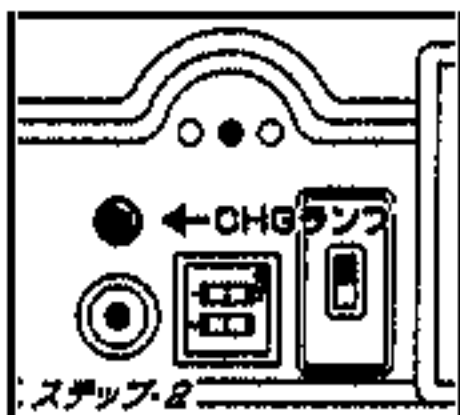
この時、エンジンスターター本体の「CHGランプ」が点灯することを確認します。「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。配線先を見直して下さい。



ステップ 2

上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線の接続先は正しく配線されています。「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線の接続先が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。なお、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。(エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



以上でL端子誤配線チェックは終了です。